



新宿山吹だより

都立新宿山吹高等学校通信
令和8年度第7号
【令和8年10月2日】

新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

バカロレアとショパン

統括校長 永浜 裕之

「時間を見つけて普段できないことにチャレンジしよう」ということで、今回は2つの提案をします。

一つ目の提案は、「正解のない試験問題にチャレンジする」ことです。6月のフランスは、大学の入学資格を得るための全国統一国家試験＝バカロレアの季節です。バカロレアは、ナポレオン・ボナパルト、つまり、ナポレオン一世が導入したという、由緒ある国家試験です。

国際バカロレア(IB)のディプロマプログラム(DP)の最終試験に合格できないと、ディプロマ(資格)は授与されません。もちろん、大学進学や将来の道が完全に閉ざされるわけではありませんが、多くの高校3年生が合格を目指して取り組みます。今年は6月15日(月)の朝8時、例年どおり哲学の試験からスタートし、53万人を超える高校3年生が受験しました。

この大学入学資格試験に、文系・理系を問わず、「哲学」という科目が存在することはとても「フランス的」です。

1808年にバカロレアが創設された当初から、哲学は試験科目でした。試験時間は4時間の長丁場で、3問のうち、1問を選択して回答します。今年のバカロレアの哲学の問題は、以下の3問でした。

- 1 私たちは自分の言葉を完全にコントロールできるのか？
- 2 他人が幸せでないときに、私たちは幸福でいることはできるのか？
- 3 フリードリヒ・ニーチェが(1878年)に著した『人間的、あまりに人間的』からの一節を解説せよ。

こんな抽象的な設問に、4時間も取り組まなければならない、フランスの高校生には心から同情します。

数年前まで行われていた日本の「センター試験」は、知識をストレートに問う問題が中心でした。現在の、「大学入学共通テスト」は、センター試験と比較して、文章の読解や資料の読み取りなど、思考力を問う問題が増えましたが、バカロレアほどではありません。日本の試験というと知識の有無が試されるため、試験の傾向を知ることで対策を立てられます。

しかし、抽象的な設問を論ずるためには、普段からよほど本を読み、自分の考え方をまとめる訓練をしておかなければ、まるで歯が立ちません。

ということで、一つ目の提案は、「興味を持った本を読み、自分の考えをまとめる取組をしたら？」という提案です。

ところで、バカロレアの哲学の問題のような正解のない試験問題は、ピアノの演奏に似ていると思いませんか。

楽譜通り、音符を間違えないで弾く、これで大学入学共通テストは楽勝です。バカロレアでは、曲をどう解釈し、自分の音楽性を盛り込むかが勝負になります。「子犬のワルツ」でさえ、3人が弾けば3つの違った子犬のワルツが生まれます。

子犬はプードルかもしれないし、ポメラニアでも、ブルドッグであってもよいのです。自分のイメージで、自分の回答を書かねばなりません。社会に出た時、ピアノ演奏のように、曲をどう解釈し、自分の音楽性を盛り込むかが、求められます。

2つ目の提案は、旅に出ることです。私はショパンが好きで、約40年前の1987年、彼の出身国であるポーランドを尋ねました。当時の東欧諸国は計画経済が破綻し、物不足が深刻でした。尋ねたワルシャワは薄汚いコンクリートでおおわれた寒々とした都会でした。旧市街は第二次大戦の戦禍から復興し、古き良き時代の面影を彷彿させていましたが、国の貧しさは首都のあちこちで感じます。買い物長い行列、ろくな商品もない店の陳列棚、品切れが常態化している町の食堂、紙くず同然の現地通貨など、これがコペルニクスやショパンが生まれ、キュリー夫人が育った国とは思えない惨状でした。

当時のポーランドは英語を話す人が少なく、ロシア語しか通じず大変でした。共産党独裁の国は言論の自由がないため、とても息苦しいものでした。人々は「金髪碧眼」の美男美女が多く、そのギャップが奇妙に感じたことを覚えています。

思い出深いのは、何と言ってもショパンの生家を訪ねたことです。

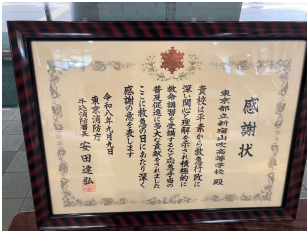
ショパンが生まれた屋敷は、ワルシャワの西60kmの、のどかな田園地帯に修復され保存されています。幼いショパンがピアノを習った部屋を覗くのは興味深く、広大な庭のそぞろ歩きも楽しいものでした。生家はただ公開されているだけでなく、日曜日午後にはミニリサイタルが開かれます。私の訪問時は、ワルシャワ音楽院で教えているピアニストが「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ」を弾いてくれました。見事な演奏に、時空を超えてショパンの真髄に触れる気がしたものです。

ショパンは19歳で故国ポーランドを離れ、ウィーンを経てパリに活動拠点を移します。当時のポーランドは帝政ロシアの支配下にあり、ショパンは二度と故国に戻れず、パリで39年の生涯を終えました。中世的な町並みが残るワルシャワの、聖十字教会の聖堂の柱の中に、本人の遺言に従い、ショパンの心臓が保存・安置されています。故国に帰ることができなかったショパンも、心だけは故国に帰らせたかったのだと思います。敬虔なカトリック信徒が多いポーランドでは、今も聖十字教会に信者が絶えることはありません。

生徒の皆さんは機会を見つけて旅に出てください。その経験が感性を磨き、生きる力につながると考えます。

牛込消防署からの感謝状(救急の日)

9月9日の「救急の日」に、牛込消防署警防課の西沢警防課長と中島統括が来校され、牛込消防署長からの新宿山吹高等学校に対する「救急業務協力者感謝状」が永浜校長に伝達されました。これは、本校において過去5年にわたって延べ200人近い生徒が上級救命講習を修了して、「上級救命技能認定証」が交付されてきた実績に対するものです。



西沢課長は、「多くの生徒が救命技能を身につけることで、学校や家庭における応急手当についての意識を高め、広げていくことは大変心強い」と話されました。これに対して永浜校長は、「体育の授業や部活動だけでなく、学校生活の様々な場面、さらには家庭や社会においても、いつ心肺蘇生が必要となる状況に遭遇するか分からない。今年度は東京都教育委員会の予算措置により、生徒は無償で受講できるようになった。今後も多くの生徒に上級救命講習を受講してもらいたい」と応じました。(定時制課程教諭 中村)



文部科学省初等中等教育局一行来校

9月11日(金)15時10分頃から、文部科学省初等中等教育局の局長及び大臣官房審議官の皆様による本校の視察が実施されました。本年8月に局内幹部(局長、審議官)の異動を受けて新体制となり、定通振興法が改正されたことを踏まえて、定時制・通信制高校の見学をととして、その実情を把握することが視察の趣旨です。

当日は「学校概要及び取組説明」、「校内視察」、「意見交換・質疑応答」という次第で行いました。まず、永浜統括校長が学校概要及び取組説明を行い、次に、この説明を受けて文部科学省初等中等教育局からの質疑、それに対する本校側の応答、更に、実際に校内を回り本校の様子を視察していただきました。

学校概要について、自分の興味や進路希望に応じて科目を選択し時間割を作成すること、「同調圧力」が少ない学校であることなどを概説し、他の高校にはない特長が生徒及び保護者に満足感を与えたとともに輝かしい進学実績につながり、入学者選抜の高い倍率に帰結していることなどを説明しました。また、文部科学省及び東京都教育庁から指定を受けた令和8年度実施事業に係る取組として、社会人と共に学ぶ生涯学習講座の中での新分野のデジタル教材の活用、通信制の「新たな教育のスタイル」(+α講座)、学習管理システム(LMS)などの次世代の学びの基盤プロジェクトを中心に先進的な教育活動の取組を概説しました。

本校からの説明を受けて文部科学省初等中等教育局の皆様から、大学入試合格のための仕掛け、文系・理系進学の割合、卒業後の生徒の状況などについて質問が出されました。このことについて、生徒のレディネス状況を確認し、カリキュラムマネジメントを意識した系統的学習計画だけでなく、なりたい自分になるために自分のペースで学習する生徒に寄り添い支援する教員の姿勢が、個に応じた最適な授業環境を創出し、文科系と理科系のいずれでも、好ましい進学成果につながっているのではないかと回答しました。

校内見学では、通信制の学習管理システム(LMS)の実演と相談室及び授業風景を参観していただきました。LMSについては、本校通信制独自のシステムである「まなぶき」の活用により生徒一人一人の学習状況を把握していること、スタディプラスによる大学受験に向けた自学自習の取組状況の把握など、従来は教員からは見えない学習活動の確認が可能になっていることを説明しました。定時制の相談室では、充実した相談体制の様子を見ていただきました。特にAIロボット(「ピーチ」と「おこげ」)とのコミュニケーションを体験していただき、人の心を癒やし、不安などの症状を和らげる効果を実感していただけたようです。(定時制課程副校長 佐々木)

「オンライン等の学びの評価研究校」連絡会開催

9月25日(金)に本校を会場として「オンライン等の学びの評価研究校」の連絡会が実施されました。東京都教育委員会の「次世代の基盤プロジェクト」で実施している中の一つの事業です。不登校対策や遠隔地での学習、また病気療養や入院中など、「多様な学び」を実現するために、オンライン環境での学習はとても重要です。

冒頭で教育庁指導部高校教育改革担当の青木薫課長から、この事業のキーワードは「生徒の学びを止めない」と「学校全体が組織で取組む」であることが確認されました。

本校で連絡会を実施した理由は、この事業の中でも特に先進的に本環境整備とオンライン授業を実施していることから、その実施内容の説明とオンライン環境を実際に見てもらうというものです。

実践状況紹介では、多様な学びコーディネーターである山口先生から11校の研究校と教育委員会の皆様に向けて説明を行い、その後活発な質疑応答が行われました。4グループに分かれた協議会では、各校での実施状況を共有し合うなど、今後の事業の課題や可能性について共有することができました。(定時制課程副校長 石井)



定時制課程 学校行事予定

10月1日(木)	都民の日 ※授業なし
2日(金)	～7日(水) 補習・補講期間
5日(月)	進路ガイダンス、適正検査
6日(火)	デイキャンプ ※希望者のみ
7日(水)	生徒12:30まで登校禁止
8日(木)	生徒終日登校禁止
9日(金)	前期終業式 笑顔と学びの体験活動プロジェクト
10日(土)	～12日(月) 期間休業日
13日(月)	後期授業開始、自己探索学習⑤
20日(火)	保護者オープンデー
21日(水)	オンライン学習デー
29日(木)	健康講話

通信制課程 学校行事予定

10月3日(土)	答案返却日
9日(金)	学校寄席(定時制と合同)
10日(土)	後期スクーリング1、 探究ワークショップ
17日(土)	後期スクーリング2
22日(木)	国立ハンセン病資料館見学
24日(土)	後期スクーリング3、学校見学会
29日(木)	健康講話(定時制と合同)
31日(土)	後期スクーリング4、校外学習事前指導
11月6日(金)	校外学習「東京ディズニーシー」